

# 脳 実 習

科目責任者 徳 田 信 子

学年・学期 2 学年・2 学期

## I. 前 文

脳実習では、講義で学修した神経解剖学の知識を基盤として、脳および脊髄を観察・解剖することにより、神経系の構造と機能を立体的に理解し、臨床医学の基礎となる解剖学的理解を深化させることを目的とする。誰一人教科書通りの構造をもたない「ヒト」を解剖することにより、科学的探究、専門知識に基づいた問題解決能力、情報・科学技術を活かす能力を身に着ける。それだけではなく、自らの意思で献体して下さった社会の一員である「故人」を解剖する機会を経験することにより、プロフェッショナルリズム、総合的に患者・生活者を見る姿勢を学ぶことができる。また、チームワークを通じて生涯にわたって学ぶ姿勢を学ぶことが可能である（医学教育モデル・コア・カリキュラム）。

定められた「献体解剖倫理指針」を理解し、順守することが必須である。

### 献体解剖倫理の原則

#### ①遺体（故人）への礼意

「死体の解剖を行い、又はその全部若しくは一部を保存する者は、死体の取扱に当たっては、特に礼意を失わないように注意しなければならない。」（死体解剖保存法、第 20 条）献体解剖は本人の遺志だけでなく、家族がいる場合にはその承諾によって初めて可能になる。遺体に対する家族の心情を考えれば、解剖に当たって礼意を失うことは決して許されない。

#### ②医学における守秘義務

「私は、私への信頼のゆえに知り得た患者の秘密を、たとえ患者の死後においても尊重する。」（世界医師会、ジュネーブ宣言、医師の誓い、第 7 項）献体解剖は医学の一部として行われる。献体解剖において経験・見聞したことは献体者の個人的な秘密に属するものであり、正当な理由なく第三者に伝達・拡散してはならない。

### 献体解剖の行動規範

#### ①礼意を有する行動・態度とは

献体解剖においては、人体の学習に対する誠実さ、遺体の尊厳に対する謙虚さ、献体解剖を許される厚意への感謝が強く求められる。

#### ②解剖実習室内での行動規範

適切に解剖を行い、十分に学習をするように努めること。故人への黙祷を捧げ、献体者と家族にも思いを馳せ、無用な雑談を慎むこと。スマートフォンなど撮影機能のある電子機器を実習室内に持ち込まない、実習室内で使用しないこと。

#### ③解剖実習室の外での行動規範

献体解剖で経験・見聞したことを、第三者に伝えることには、慎重を期する必要がある。とくに以下の点に留意すること。

- i) 献体解剖が行われる解剖実習室までの通路、大学への往復の公共交通機関など第三者がいる場所では、友人との間の雑談であっても、献体解剖の内容について語ることは慎まなくてはならない。
- ii) SNS などを使って、献体解剖の経験・見聞を発信してはいけない。

## II. 担当教員

教授	徳 田 信 子	解剖学
准教授	上 田 祐 司	解剖学
准教授	江 原 鮎 香	解剖学
講 師	山 口 剛	解剖学
講 師	橋 篤 導	解剖学
助 教	北 沢 祐 介	解剖学

助教 沢登祥史 解剖学

教授 阿久津博義 脳神経外科学

准教授 池田剛 脳神経外科学

### Ⅲ. 一般学習目標

脳・神経系の構造と機能についての相関性の理解を深める。

### Ⅳ. 学修の到達目標

- 1) 脳の構造を立体的に把握し説明できる。
- 2) 脳の構造を機能の上から説明できる。

### Ⅴ. 授業計画及び方法 \* ( )内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ, 知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
	8	31	月	3	オリエンテーション	解剖学全教員	
1	9	2	水	3	脳実習(講義)1	江原鮎香	1
2		2	水	4	脳実習2	解剖学全教員	2, 3, 4
3		2	水	5	脳実習3	解剖学全教員	2, 3, 4
4		2	水	6	脳実習4	解剖学全教員	2, 3, 4
5		3	木	3	脳実習(講義)5	江原鮎香	1
6		3	木	4	脳実習6	解剖学全教員	2, 3, 4
7		3	木	5	脳実習7	解剖学全教員・脳神経外科学教員	2, 3, 4
8		3	木	6	脳実習8	解剖学全教員・脳神経外科学教員	2, 3, 4
9		7	月	3	脳実習(講義)9	江原鮎香	1
10		7	月	4	脳実習10	解剖学全教員	2, 3, 4, 5
11		7	月	5	脳実習11	解剖学全教員	2, 3, 4, 5
12		7	月	6	脳実習12	解剖学全教員	2, 3, 4, 5
13		8	火	3	脳実習(講義)13	江原鮎香	1
14		8	火	4	脳実習14	解剖学全教員	2, 3, 4, 5
15		8	火	5	脳実習15	解剖学全教員	2, 3, 4, 5

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
16		8	火	6	脳実習16	解剖学全教員	2, 3, 4, 5
17		9	水	3	脳実習（講義）17	江原 鮎香	1
18		9	水	4	脳実習18	解剖学全教員	2, 3, 4, 5
19		9	水	5	脳実習19	解剖学全教員	2, 3, 4, 5
20		9	水	6	脳実習20	解剖学全教員	2, 3, 4, 5

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。（ ）内は評価の割合。

定期試験（95%）、課題など（5%）

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

ハインズ 神経解剖学アトラス 第5版 山内（訳）メディカル・サイエンス・インターナショナルプロメテウス  
解剖学アトラス 医学書院

#### VIII. 質問への対応方法

基本的に毎回の講義終了時に疑問は解決すること

問い合わせ先：解剖学講座 受付・前室（総合教育研究棟8階 813室）月～金曜日 8：30～17：00

#### IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、 多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決する ことができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

#### X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験内容については、希望があれば講評・解説する。

#### XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（20分）：配信動画を視聴し、『実習の手びき』の該当箇所を読み、観察すべき構造や用語をあらかじめ把握

しておくこと。推薦されたテキストおよび『神経解剖学』の資料にて理解を深めた上で、実習で確認したい点や不明な点を事前に整理し、「どこを見るか」「何を確かめたいか」を意識して実習に臨むことを重視する。

事後学習（15分）：実習で観察した所見を振り返り、テキストや配布資料と照らし合わせながら、構造・名称・位置関係を整理すること。あわせて、観察結果が機能や臨床像とどのようにつながるかを考察し、事前に立てた疑問がどのように解決されたかを確認することを重視する。

## XII. コアカリ記号・番号

PS-02-03-01, PS-02-03-02